【ウェブカメハウス】　ＶＯＬ18

iestory
カメハウス編集室
2009.03.19

今回のテーマは・・・『土壁』です。

　先日打ち合せをしたお客様から京都で「糸壁」を見てきましたと伺いました。「糸壁？」と思い検索してみました。すると・・江戸時代に作られた京都の豪商の邸宅「二条陣屋」で糸壁が使用されていました。ここは民家では全国で 2 番目に重要文化財になった所。その屋敷で能舞台に通じる廊下は役者の絹の着物が傷つかないように西陣織の糸くずを丹念に塗り込めた糸壁になっているとのことです。まさに古人の知恵ですね。ちなみに茶室の外壁は鉄粉を塗り込め、故意に錆を浮かす蛍壁で、ひなびた雰囲気を醸し出しているとのことです。「蛍壁」、「糸壁」名前も素敵です。また建物の防火対策は当社でおなじみの漆喰が塗られているそうです。日本の文化に本当に触れたくなります。まさに「そうだ京都に行こう！」の気分です。

■『耐震性にすぐれた土壁建築』

土壁を持つ伝統的な建築物が、地震などで受ける圧力にどの程度耐えられるかを調べる公開実験が、岡山理科大で行われました。ＮＰＯ法人「伝統構法の会」（本部・東京）が主催。

実験方法

　柱と柱の間にヒノキ材５本を水平に通し、竹を縦横に敷いた骨組みに、土を塗った土壁（縦３メートル４０、横３メートル９４、厚さ７センチ）を使用。左右に５～４５センチずつ揺らすため、油圧ジャッキを使い圧力をかける方法。実験は「間仕切り型」と「外壁型」の 2 タイプで行ったとのこと。

外壁型では圧力が強まるごとに木材が「パキパキ」と音を立て、約１５トンの圧力をかけ続けると、壁の土が崩れた。しかし、骨組みは残り、土を塗り替えれば再生できることが確認された。間仕切り型もほぼ同じ結果だったという。同会は土壁の耐久性を評価。壁の土が圧力を吸収、少しずつ崩れながら発散していると分析し、「**骨組みが崩れなければ、地震が起こっても家は倒れず、中にいる人を守ることができる可能性は高い**」と評価しているそうです。

■『クレディセゾン、フラット 35 に参入』

クレディセゾンは住宅金融支援機構と提携し、長期固定金利の住宅ローン「フラット 35」の取り扱いを始めました。カード事業の顧客基盤を生かして契約者を募ります。カード大手で同ローンを扱うのは初めて。小売業者と組んで家具や家電製品の購入ポイントを提供するなど独自のサービスも手掛ける。年間 1000 件、200 億円の融資契約を目指すとのこと。18 日から販売を始める。同社が契約者の募集と与信審査、回収業務を手掛け、住宅機構からローン金利の一部を手数料として受け取る。

　住宅ローンも選択肢がずいぶんひろがりましたね。